

運営委員会・研究部会合同会議を開催

スポーツの祭典活用し活性化

一般社団法人静岡県中部未来懇話会の「運営委員会・研究部会合同会議」が昨年12月21日、静岡市葵区のホテルアソシア静岡で開催された。運営委員7人、研究委員5人が出席し、平成30年度の年間調査研究テーマについて協議した。研究部会でまとめた素案「スポーツの祭典を活かした地域経済の活性化―静岡県中部地域における持続可能な観光戦略をめざして」に、この日の合同会議の意見を反映させて成案を作り、1月31日に開く理事・運営委員・研究委員全体会に提出する。

テーマ素案は、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京五輪開催を控え、各地で施設整備や訪日客の受け入れ態勢

来年度のテーマ協議

経済効果が
見込まれる



来年度の研究テーマについて協議した運営委員会・研究部会合同会議静岡市葵区のホテルアソシア静岡

の整備が進められている。静岡県でもラグビーワールドカップでエコパスタジアム、東京五輪で伊豆市のベロドロームが自転車競技の会場になっているが、各会場では世界から多くの訪

日客を迎える。それによって様々な経済効果が見込まれる。多くの観光資源を持つ静岡県中部地域にとってもスポーツの祭典を活かすため「観光」に焦点を当てた地域の活性化戦略を構築することが極めて重要な課題だと考えられる。

そのために持続可能な観光戦略の構築に向けた研究に取り組むことを提案している。またシンポジウムの展開案として、第1回(春季)は「スポーツの祭典を活かした観光の素地づくり」、第2回(秋季)は「持続可能な観光戦略のモデル構築」を提示した。

テーマ素案に対しては、出席者から「海外からたくさんの方が来れば経済効果が生まれる。時宜を得たテーマだ」「どうやって市民、県民に落とし込んでいくか」「待っているのではなく仕掛

けていくことが大切」「狙うターゲットはどこなのか。多様性を持たなくてはいい」「などの意見が出されたが、賛同する意見が大勢を占めた。

研究部会長の日詰一幸・静岡大人文学部科学部学部長は、「静岡県中部地域は伊豆や西部地域に比べ外国人宿泊者数の割合が低い。そうした中、ラグビーワールドカップ、東京五輪は中部地域の活性化を推し進める千載一隅のチャンス。一年をかけて研究し、持続可能な観光戦略のプラットフォームを構築したい」と語った。

この後事務局が、静岡県中部未来懇話会の政策提言に基づいて設立され六年目の活動に入っている「中部地域経営会議」のこれまでの活動状況や、中部未来懇話会の今後のスケジュールなどを報告した。